

平成26年度下半期における医療事故等について

1 レベル別件数

レベル (※1)	内 容	件 数			計
		岡本台病院	がんセンター	とちぎりハビリ テーション センター	
0	エラー(※2)や医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	79	86	86	251
1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない。)	277	260	92	629
2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサイン(※3)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。)	76	153	106	335
3 a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。	14	89	22	125
3 b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)。	1	3	1	5
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0	0
4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	1	0	0	1
5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	0	0	0	0
計		448	591	307	1,346

※1 レベル0、1…ヒヤリ・ハット事例(患者に実害がなかったもの)に該当  
レベル2～5…医療事故(患者等への実害があったもの)に該当

※2 ある行為が、①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、  
③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を  
「エラー」という。

※3 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事 象	内 容	件 数			計
		岡本台病院	がんセンター	とちぎりハビリ テーション センター	
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	78	212	88	378
輸 血	血液検査、輸血など	0	5	0	5
治療処置	手術、麻酔、処置など	1	53	6	60
医療用具	医療用具、医療機器など	0	9	7	16
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	1	87	0	88
検 査	採血、撮影など	4	50	9	63
療養上の場面	転倒、転落、給食、栄養など	279	106	126	511
そ の 他		85	69	71	225
計		448	591	307	1,346

((公財)日本医療機能評価機構による分類)

### 3 代表的事例及び対応策

事象	代表的事例	対応策
療養上の場面 (転倒)	<p>【レベル1】 入院患者が自室前で、持ち歩いていたコップからこぼれた水に滑って転倒したが、外傷なしのため経過観察となった。</p>	<p>コップを持ち歩く患者に対するこまめな観察を行うとともに、床濡れを発見した場合すぐに拭き取るなど病棟内の環境整備についてスタッフ間で確認し周知徹底することとした。</p>
療養上の場面 (食事)	<p>【レベル3a】 入院患者が食事中につまり感と咽頭への違和感を訴えたため、吸引によりりんごのかけらを排出させた。</p>	<p>患者それぞれの嚥下状態や、食行動をチェックシートで確認し、アセスメントを行うことを徹底した。また病棟間でカンファレンスを行い、食事形態や摂取方法等についてスタッフ間で情報共有を図ることとした。</p>
検査	<p>【レベル0】 医師から右膝4方向及び右大腿骨2方向のX写真の撮影依頼があったが、検査前の患者との会話の中で、反対側に疾患があることが分かった。再度医師に確認し、左下肢を6枚を撮影した。</p>	<p>患者とともに症状確認したことによって医師の指示誤りに気づくことができた。各種検査や処置の実施時は患者とともに氏名や部位等を確認する「患者参加の安全確認」を継続して実施する。</p>
医療用具	<p>【レベル1】 点滴を実施中の患者が、エレベータに乗り込む際に輸液ポンプのコードが垂れ下がりドアに挟まった。エレベータはそのまま上昇し、エレベータ内の患者はドア側に身体が引っ張られ、挟まったコードが断線した。</p>	<p>事故発覚後、自動ドアに関する正しい認識をもつための情報発信と患者の安全確保策として、次の対応を取った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不要な器機類を付けたまま移動させない。</li> <li>2. 移動時にはコードや器機類の安定性を確認し固定する。</li> <li>3. 可能であれば短時間移動時はコードはポンプ本体から外す。</li> <li>4. 点滴スタンド用コード類の収納用具について検討する。</li> <li>5. 患者への注意喚起及び必要に応じた看護者の同行を周知する。</li> </ol>
その他	<p>【レベル3a】 院内通路で歩行訓練中に、木製手すりのささくれが患者の右手に刺さり出血した。</p>	<p>木製の手すりにやすりをかけるとともに、院内に同様の箇所がないか確認し、それ以外でも危険な箇所があれば早急に対処するようスタッフ間に周知した。</p>